

【実践報告5】

これからの時代に求められる資質・能力を育む学びの 在り方に関する研究

— 県立高等学校「総合的な探究の時間」の計画と実践 —

愛知県立小坂井高等学校

1 はじめに

本校は令和7年度に創立50周年を迎える東三河の普通科高校である。生徒は極めて素直で真面目であり、与えられた課題について懸命に取り組むことができる。周囲への細やかな配慮ができるが、やや受動的な面が目立つ。クランボルツ理論に基づく調査においては、楽観的であり、人と協働しながら活動することを得意としている生徒が多い。

研究協力校になったことをきっかけに、「地域で活躍するリーダーの育成」を目指す生徒像として掲げ、そのために必要な学力の三要素を身に付けることができるような取組を計画・検討し、3年間に渡り実践を行った。

2 実践内容

(1) 校内での組織づくり

本校では、各学年や類型ごとに教科が「総合的な探究の時間」（以下、「総合」と記載する）を実施してきた。この研究をきっかけに、教科横断的な体制をつくり、学校全体で「総合」に取り組みたいと考えた。そこでまず、多くの職員に「総合」の検討に関わってもらえるような組織づくりを行った。

ア 将来構想検討委員会

まず、「総合」を進めていくための核となる組織を「将来構想検討委員会」に位置付けた。管理職、教務主任、進路指導主事をはじめ、教科、学年、経験年数がバランスよく配置されるような教員10名程度が参加した。会議は年間3から4回程度開催し、先進校での授業や「総合」での経験などを共有し、計画を練るためのよい機会となった。また、令和3年度（以下、昨年度）から令和4年度（以下、本年度）への移行の際には、委員の半数を入れ替えることで更に多くの教員に検討に関わってもらえるように工夫した。委員会では主に全体計画や年間計画について話し合った。

イ 授業担当者について

昨年度の第1学年では、副担任、情報科教諭、学年主任の8名で「総合」を実施する体制にした。実践の初年度であったため、移行期間と位置付け、2クラスずつ4展開として、水曜日の4、5、6限にかけて実施する形をとった。学年主任と副担任のうち1名は、全ての時間を担当することで、全体を見渡しながらか授業を進めることができた。本年度の第1、2学年については正・副担任で担当することにした。第1学年は14名、第2学年は12名の教員が担当し、「総合」に関わる教員の実人数は前年度の5割増しになった。多くの教員が関わる形を取りたいという目的が達成できたと考えている。

(2) 全体計画・年間計画の作成

ア SWOT分析

令和2年度に全体計画を検討するに当たり、本校の特性を知るために全職員でSWOT分析を実施

し、本校の強み、弱み、育てたい生徒の資質・能力を確認した。合わせて、教員に「総合」としてどのような内容が生徒にとってよいものなのかも調査した。SWOT分析の結果、「地域」「職員」「教室配置」などにおいてプラス的要因や強みが多くあった(資料1)。また、本校の目標として「地域を支えるリーダーとしての資質・能力を備え、社会の発展に寄与しようとする生徒」を育成したいと考えていることや地域とのつながりを大切にしていきたいとの思いから、「地域」をキーワードにして探究活動を進めていくことを決めた。

イ 目指す生徒像とその資質・能力と全体計画

目指す生徒像を「地域で活躍するリーダー」とし、そのために必要な資質・能力について検討した。「地域や日本の特色やよさを調べ、整理し、理解することができる」など「知識及び技能」に関する資質・能力をはじめ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応する資質・能力を検討し、全体計画を策定した(別紙1)。それらの資質・能力を身に付けさせるための単元内容を考え、その核となる探究課題を「地域探究」とすることにした。

ウ 年間計画

全体計画を基に、各学年の年間計画の作成を行った。時間的な余裕をもたせ、一つ一つを丁寧に実施できるような計画にしたいと考え、内容を精査した。昨年度の第1学年では、三つの単元「地域探究」「進路探究」「国際理解」を実施することにした(別紙2)。これまで教科で「総合」を担当していたノウハウを生かし、「国際理解」をテーマとする活動を実施することにしたが、実施する時間が十分に取れないという反省も出てきた。また、「地域探究」を核となる探究とするため、年間実施予定時間の半分を割くこととした。

(3) 地域探究

第1学年で核となる「地域探究」は、そのテーマについても検討を行って、豊川市を中心とした東三河の活性化について考察できるような活動を実施したいと考えた。

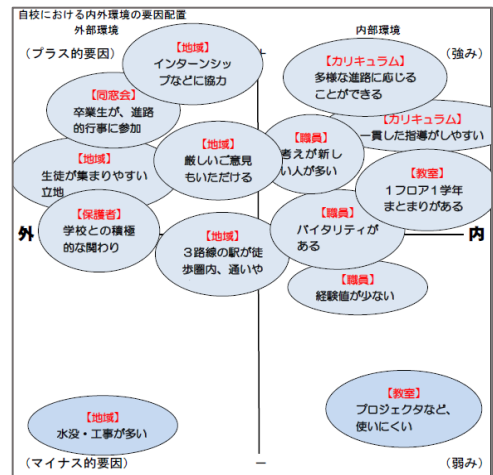
ア 内容の検討

昨年度は「東三河に住む」という視点から内容を検討し、「東三河に移住したい人へのプレゼンテーション」をテーマとした。「地域活性化のために魅力を発信する」という視点をもつように指導した。また、観光名所や有名なものを紹介するだけでなく、子育てや生活面でのメリットについても触れ、発表を聴いた人が「住んでみたい」と思えるような内容を目指した。

イ 実践

まず、東三河の市町村を五つの地域に分け、同じクラス内で4人1グループとして、くじ引きで担当する地域を決定した。1時間目は、どのように探究を進めていくか探究計画作成を行い、活動の最後に実施する発表を相互評価するに当たってルーブリック(資料2)を作成し、これを生徒に示した。

【資料1 SWOT分析】



【資料2 発表のルーブリック】

発表のルーブリック(生徒用)

	3点	2点	1点
内容①	着眼点にユーモアがあり、地域の特性や課題を踏まえて、内容を正確に伝えている。	地域の特性や課題を踏まえて、内容を正確に伝えている。	地域の特性や課題が不明瞭であり、正確さに欠ける。
内容②	自分の考えを論理的に述べている。	自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。
ポスター	内容は適量であり、イラストや写真に加え、グラフなど具体的な数値が示されている。	内容は適量であり、イラストや写真が効果的に使用されている。	内容が乏しく、理解しにくい。
質疑応答	質問に答え、自分の考えをはっきりと述べた。	質問に答えることができた。	質問に答えることができなかった。
態度①	適度な声の大きさと、聞き取りやすいスピードで話している。	適度な声の大きさと話している。	声が小さく、聞き取りづらい。
態度②	視線を見ないようにならぬよう、聞き手のほうを見ながら話している。	ときどき視線を見ることもある。聞き手を意識している。	視線から目を離せず、話んでいる。

2時間目以降からは食や産業、子育てなど、生徒たちが考えたさまざまなテーマについて、生徒のモバイル端末を活用して調べた。内容はできる限り身近なものから考えるとよいことを助言し、日々の授業や日頃の生活などを関連付ける方法も伝えた。授業担当者は、担当する教室で生徒の活動の様子（資料3）を見守り、適宜助言や指導を行った。特に留意した点は、調べ学習だけで終わってしまうことのないよう、データや資料を基に自分の考えをまとめ、それを述べるよう助言したことである。これらの指示は、授業担当者間で共有し、どのクラスも同じように進められるように工夫した。

【資料3 活動中の生徒の様子】



各グループの探究活動を経て、3時間に渡ってクラス内での発表を行った。模造紙に書いたポスター（資料4）と原稿を基にして1グループ10分で発表した。聞き手となる生徒は、事前に示したルーブリックを手元に置いて発表を聴くことで、相互評価を行った。また、発表した生徒は、振り返りとして自己評価を行った。なお、発表の評価はベネッセコーポレーションのClassiのアンケート機能を用いて集計し、その結果と教員の評価とを合わせてクラス代表を決定した。

【資料4 生徒の作成したポスター】



ウ 授業担当者の情報共有

実践に当たり、前述したように担当教員間で授業の進め方を共有するよう心がけた。まず、授業時間中は事前に断らなくても気軽に教室を行き来して授業の様子を見てよいことにした。他の担当教員の授業を見ることで、進度やクラスの様子を知ることができた。特に、「指導が全く同じである必要はなく、クラスの色が出てよい」ことを積極的に伝えた。また、授業内に会議をもつことが難しかったため、正担任がクラスのLTを実施している時間に副担任が集まり、「総合」に関わる簡単な打ち合わせの場を設定した。この打ち合わせは、都合がつく教員のみが集まり、参加が難しい場合は後から情報共有を行うこととし、無理のないよう心がけた。以上二つのことは、初めて実施する内容に当たって指導方法に対する教員側の不安を解消するというねらいがあり、ここでは「探究活動に正解はない」と繰り返し伝えている。結果として、担当教員やクラスの個性が表れる地域探究となった。

3 成果と課題

本年度においても「将来構想検討委員会」を「総合」の中心的な組織として活動を継続してきた。昨年度の委員からメンバーを約半数入れ替えることで、より多くの教員に「総合」に関する意識を高めることができた。多くの教員が「総合」に関わる形に変化できたことは、本校として大きな成果と言える。一方で、委員会の在り方や「総合」の全体担当者の負担が大きいなど課題は多い。特に、全体担当者は全ての学年を取りまとめながら「総合」を実施しなければならず、準備や調整などには非常に負担が大きい。このほかにも、職員の打ち合わせのための時間の捻出が難しいなどの課題がある。全員が集まり、打ち合わせをすることは、授業担当者が増えれば増えるほど難しくなるため、今後の委員会や授業担当者会議の在り方を検討していく必要を感じている。

全体計画を1枚のシートに収めたことによって、「総合」を通して目指す生徒像や育成したい資

質・能力の分かりやすさの点でたいへん効果的であったと感じる。また、年間計画によって、1年間の大まかな流れが分かり、担当者同士の共有がしやすかった。さらに、全体担当者が細かい指示をしなくても、学年の中で教員がよりよい授業のやり方を検討し、実行できたこともあった。このことから、全てを指示しなくても、内容と計画が明記されていることで、授業の進め方や生徒への助言は各教員に任せられることが分かった。一方で、全体計画が分かりにくい、年間計画どおりに進めていくと最後までやり切るための十分な時間が取れないなどの指摘もあった。そこで、本年度は年間計画の見直しを行い、単元「国際理解」を削除することとした。その結果、時間に余裕をもって「地域探究」を実施することができた。現在、令和5年度に向けて、全体計画を見直しているところである。育成を目指す資質・能力の三つの柱に対応する資質・能力を見直しながら、今後も続けていく予定である。

また、「地域探究」は実施2年目（本年度）となり、テーマを「東三河に住む」から「東三河のSDGs」に変更した。より身近な課題を設定し「自分たちにできること」を考えることで、SDGsという大きなテーマを「自分ごと」にするという目的であった。授業のやり方は変更せず、テーマのみの変更を試みた。現在進行中であるが、年度ごとにテーマを変えても教員のノウハウを引き継ぎ、昨年度の生徒の成果物が参考になったりすることで、大きなトラブルはなく進んでいる。実際に、昨年度第1学年を担当した教員が、生徒の成果物であるポスターを本年度の第1学年に見せて活動のゴールをイメージする材料として活用していた。テーマは変更したものの、情報共有をしていたこともあって教員間のつながりを保てたと感じている。少しずつではあるが、職員間での「総合」に関する意識の変化を感じている。

昨年度の反省に基づき、本年度では、探究活動から発表までの間に中間報告会を取り入れることにした。それは、何度も短い発表を繰り返すことで気付きや経験を得て、よりよい発表になると考えたからである。本年度の第1学年は、中間報告会を経たことで、自分たちの発表に足りないところや他のグループのよいところに気付き、改善を重ねている。その成果として、内容は充実し、探究を深めることのできたグループが多くなった。また、探究活動を2年間行っている現在の第2学年は、発表することに慣れてきた。本年度は「課題探究」を実施しており、自分の興味のあることからテーマ設定をしたが、自分の進路や授業で取り扱った内容に関連するテーマを選ぶ生徒が出てきた。第1学年での地域探究や進路探究が生きていると感じる場面が増え、生徒の前向きな変容を感じている。

今後、改善すべき課題はあるものの、生徒によりよい変容が見られ、教員の意識も変化してきている。「総合」の内容を大きく変えることは決して容易ではないが、複数の教員と協力することで、少しずつ変化させることは可能であると感じる。この研究に携わり、教員側が生徒と一緒に考え、一緒に学ぶ姿勢で「総合」を実施することが大切だと感じる。「『総合』に正解はない」と考え、それぞれの学校に合った「総合」の形をつくってみることを勧めたい。

【別紙 1 全体計画】

小坂井高等学校 「総合的な探究の時間」 全体計画

第1の目標	各学校における教育目標
<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしなが、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<p>校訓</p> <p>一. 深く考え 学び続ける人となる 一. 努力を続け たくましく生き抜く人となる 一. 礼儀正しく 心豊かな いのちをいつくしむ人となる</p> <p>目指す生徒像「地域で活躍するリーダー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな学習指導の充実 ・人としての在り方・生き方教育の充実 ・健やかな体と豊かな心を育む教育の充実



各学校において定める 目標
<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身に付け、さまざまな経験を通し、多様な考えがあることを理解できること 知識及び技能 ・知識・技能を活用して、探究活動に取り組む姿勢を身に付けること 思考力、判断力、表現力等 ・探究活動に主体的に取り組む、地域の人や物を大切に、協働・貢献できること 学びに向かう力、人間性等



各学校において定める 内容	
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す 具体的な資質・能力
<p>第1 学年</p> <p>進路探究「職業を知る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の特性や適性を把握し、職業や学問に関する情報を収集し、整理しながら、自己の生き方を考える。 <p>地域探究「東三河を含めた愛知県を知る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力や課題を知ることによって地域の特性を理解し、地域を活性化させる方法などを考える。 <p>国際理解「世界を知る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の歴史や文化を学びながら、時事問題を関連付けながら、その背景を考える。 <p>第2 学年</p> <p>進路探究「自らの進路を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1 学年次に探究した職業や学問に関する情報を活用し、自分の進路設計などを踏まえて、さまざまな学問の特性を知る。 <p>地域探究「日本を知る（修学旅行）・愛知県を深める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行先である広島市の歴史や文化を探究するとともに、現地での活動も考える。また、1 年次の探究活動を基に、地域のために自分たちに何ができるかを考える。 <p>第3 学年</p> <p>進路探究「大学での研究を知る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1, 2 学年次で得た知識・技能を踏まえ、大学等で行われている研究について調べる。 <p>学問探究「自らの興味・関心を深める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路探究や地域探究で培った知識や探究方法を使用し、自らが興味のある分野や題材を選択し、個人研究を行う。 	<p style="background-color: #000080; color: white; text-align: center;">知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献や資料から、必要な情報を抜き出し、整理することができる。 ・統計やグラフから、必要な情報を読み取り、計算や分析ができる。 ・地域や日本の特色やよさを調べ、整理し、理解することができる。 ・身近に起きている自然現象などの仕組みを理解することができる。 ・日本や世界の国々の成り立ちや文化的・社会的背景などを目的に応じて調べ、整理することができる。 ・さまざまな形の文章を読むことができる読解力を備えており、言語を正しく用いることができる。 <p style="background-color: #00b0f0; color: white; text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの探究活動の目的を明確にし、計画を立てることができる。 ・課題解決に向けて、さまざまな役割を経験し、リーダーにもサポート役にもなれる。 ・周りを見て、場面に応じて必要とされる行動ができる。 ・自らがどんな人間かを見つめなおし、整理して表現することができる。 <p style="background-color: #ff9933; color: white; text-align: center;">学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら疑問を見だし、方法や過程を考え、解決に向かう姿勢がある。 ・計画に基づいて、失敗を恐れず、前向きに考えることができる。 ・他者との違いや異なる意見を尊重することができる。 ・継続したり、繰り返したりすることで、粘り強く取り組む姿勢がある。



教科・科目を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力	
情報活用能力	言語能力
<ul style="list-style-type: none"> ・文献や資料から、必要な情報を抜き出し、整理することができる。 ・統計やグラフから、必要な情報を読み取り、計算や分析ができる。 ・地域や日本の特色やよさを調べ、整理し、理解することができる。 ・身近に起きている自然現象などの仕組みを理解することができる。 ・日本や世界の国々の成り立ちや文化的・社会的背景などを目的に応じて調べ、整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな形の文章を読むことができる読解力を備えており、言語を正しく用いることができる。 ・聞き手にとって分かりやすい言葉や表現を使い、発表や発言をすることができる。

【別紙2 年間計画（第1学年）】

令和3年度 「総合的な探究の時間」 年間計画

愛知県立小坂井高等学校

対象 第1学年生徒

実施時間 毎週1単位時間（クラスごと実施）

外部講師 あり

月	時数	指導内容	主な探究活動	主な評価方法
4	1	ガイダンス	探究の目的や方法を理解する。	ワークシート
	3	進路探究	自己の特性や適性を考える。	ワークシート
5	2	進路探究	講話を踏まえ、レポートにまとめる。	レポート
	2	国際理解	テーマ設定	ワークシート
6	2	国際理解	まとめ・発表準備	活動の観察
	1		発表（グループ内）	評価シート
	1	進路探究	テーマ設定	ワークシート
7	2	進路探究	情報収集・まとめ・発表準備	活動の観察
9	3	進路探究	情報収集・まとめ・発表準備	活動の観察
	1	進路探究	発表（クラス内）	評価シート
10	1	進路探究	発表（クラス内）	評価シート
	1	地域探究	テーマ設定に向けての調べ学習	ワークシート
	2		テーマ設定・情報収集	活動の観察
11	2	地域探究	テーマ設定・情報収集	活動の観察
	2		中間発表	評価シート
12	2	地域探究	情報収集・まとめ・発表準備	活動の観察
1	3	地域探究	情報収集・まとめ・発表準備	活動の観察
2	3	地域探究	発表（クラス内）	評価シート
3	1	地域探究	1年間のまとめ	ワークシート